

## 2023.5.17 第3回靈的講話 「山上の垂訓①」

生徒の皆さん、お早うございます。新学年も一ヶ月半が過ぎました。初夏の青い空と新緑の美しい季節です。生徒の皆さんには、休憩時間も教室や廊下に籠もりがちですが、たまには校舎の外に出て、青い空と木々の緑とを満喫されてはどうでしょうか？

さて、前回、お話ししたように、今回からしばらくは新約聖書の最初の書物、マタイによる福音書を読んでみたいと思います。このマタイという人はイエス様の12人の弟子の一人ですが、このマタイが書いたといわれる福音書のすべてを読むのではなく、特に有名な「山上（山の上という意味です）の説教」と言われる箇所を紹介したいと思います。では、まず、聖書を開いてください。マタイによる福音書の5章です。皆さん的新約聖書の6ページ上の段です。

この「山上の説教」にはイエス様が語られた一連の言葉、お話が記されています。そして、この「山上の説教」には、聖書の中でも有名な言葉がたくさん出でます。私もこの「山上の説教」が好きで、疲れた時とか心が塞ぐ時に読むと、何かイエス様が直接語りかけてくださっている様な気がして、慰められ、元気が出でます。

でも、この「山上の説教」の全部をこの靈的講話で読むことはできませんから、皆さんに知ってほしい箇所を5回に分けて紹介したいと思います。

まず今日は、5章の1節から10節まで、「山上の説教」の最初の部分です。では、一緒に読みましょう。

「イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。

『心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

悲しむ人々は、幸いである、その人たちちは慰められる。

柔軟な人々は、幸いである、その人たちちは地を受け継ぐ。

義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちちは満たされる。

憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちちは憐れみを受ける。

心の清い人々は、幸いである、その人たちちは神を見る。

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちちは神の子と呼ばれる。

義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。』

ここでは、イエス様が「神様の前では、このような人は幸いです、祝福されています」と言われている八種類の人々が紹介されています。イエス様が「このような人が幸いなのです」と評価される基準は、私たち人間の基準とはかなり違う様です。私たち人間であれば、幸いなのは「多くの財産をもつ人々」「他の人よりも能力の高い人々」あるいは「社会を動

かし、他の人から尊敬される人々」でしょう。しかし、神様の評価と人間の評価は異なることを覚える必要があります。そして、各文の後半にある「その人たちは何々になります」というのは、神様がそのような人々を、このようになさいます、導かれます、という意味ですね。

読めばなるほどと分かりやすい言葉もありますが、説明を要する言葉も幾つかあるようです。例えば、3節の「心の貧しい人々」とはどのような人でしょうか？この「貧しい」はギリシア語で「プトーコス」という言葉で、「乞食のような」という意味があります。この「乞食」という言葉は現在では安易には使ってはいけない言葉かもしれません。でも乞食をしている人には特徴があります。それは、自分の貧しさを知っている人で、しかも自分の必要を満たしてほしいと声を上げて求める人です。この3節の「心の貧しい人」とは、自分が未熟であり欠点や弱点など足りないところがたくさんあることを知っている人で、しかも、自分を何とかしたい、欠点や弱点を乗り越えたいと神様に助けを求める人を示しています。そのような人は幸いである、祝福されているとイエス様は言われます。神様は、神様に求められる者には必ず答えてくださり、御自分の国に招き入れてくださるからです。

また、6節には「義」という言葉が出てきます。聖書では、「義」とは「神様の正しさ」を表しています。この世界では多くの不正や悪がはびこっています。他の人を踏みつけてでも自分が得をしよう、人の上に立とうとする人がいる反面、その影で多くの罪のない人が痛み苦しんでいます。6節の「義に飢え渴く人」とは、このような不正や悪を嘆き、神様が正しく裁かれることを願う人を表しているのだと私は思います。聖書は、神様は必ずこの世界の悪や不正を正しく裁かれると宣言しています。また、10節の「義のために迫害される」とは、このような神様を信じるが故に周囲の人から反対され迫害される人を表しています。キリスト教の歴史の中では、イエス様への信仰のために迫害され、殉教した人も多くいることを私たちちは知っています。

この八種類の「幸いな人」について読んでみて、皆さんはどう思われますか？かなり以前ですが、ある朝、私は聖書のこの箇所を読んでいました。その時、神様が私の心に「あなたは、この八種類の人のうちの、どの人になりたいですか」と語りかけられた気がしたのです。私はしばらく考え、「私は『平和を実現する人』、平和をつくる人になりたいです」と返事をしてしまったのです！ だって、「神の子」と呼ばれるなんて素敵ではないですか。しかし、そのように祈ってからしばらくして、特に仕事において、なぜか私は、人間関係が難しい職場に置かれたり、対立する上司や同僚の間に入って仲裁をしたり、互いに歩み寄ることを働きかける役割や立場に置かれることが多くなったのです。あっ、今の清心中学校・清心女子高等学校は違いますよ。清心はとても平和な学校ですね。その当時の私は「おかしいなあ、私は平穏で問題のないところが好きなのに」と私はブツブツ考えていました。しか

し、しばらくして、私は気が付いたのです。平和を実現させ、平和をつくる必要があるのは、戦いや争いがあるところです。もうすでに平和があるところには、平和をつくる人は必要ありませんよね。私が「平和をつくる人になりたい」と祈ったので、神様は私をあえて争いや仲違いの多い場所に置かれ、平和を実現するとはどのようなことかを教えられているのだと分かりました。神様は、私が考える以上に、私の祈りを真剣に聞いて答えてくださったのです。

さて、皆さんだったら、この八種類の「幸いな人」のうちの、どのような人になりたいですか。「必ず」ではありませんが、もしよければ、靈的講話ノートに書いてみてください。

それでは最後に、「主の祈り」を、意味を考え、思いを込めて祈りましょう。

賛歌の8ページ、あるいは教室の黒板の上にある「主の祈り」を見ましょう。

皆さん、今日はかなり暑くなるようです。日によって、あるいは朝晩で寒暖の差が激しい時季ですから、健康管理に気をつけましょう。それでは、ありがとうございました。